

# 同和問題に関する

## 第6次意識調査結果(その二)

12月号に引き続き「同和問題に関する第6次意識調査」の結果を掲載します。同和問題に対する意識を分析し、考察を加えながらこれからの人権・同和教育を進めていきたいと思えます。

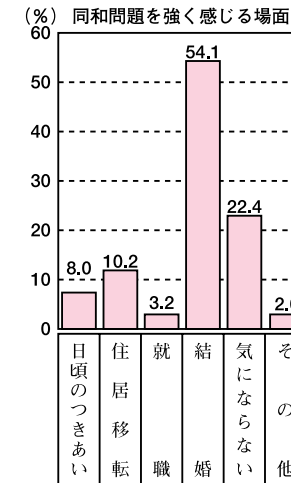
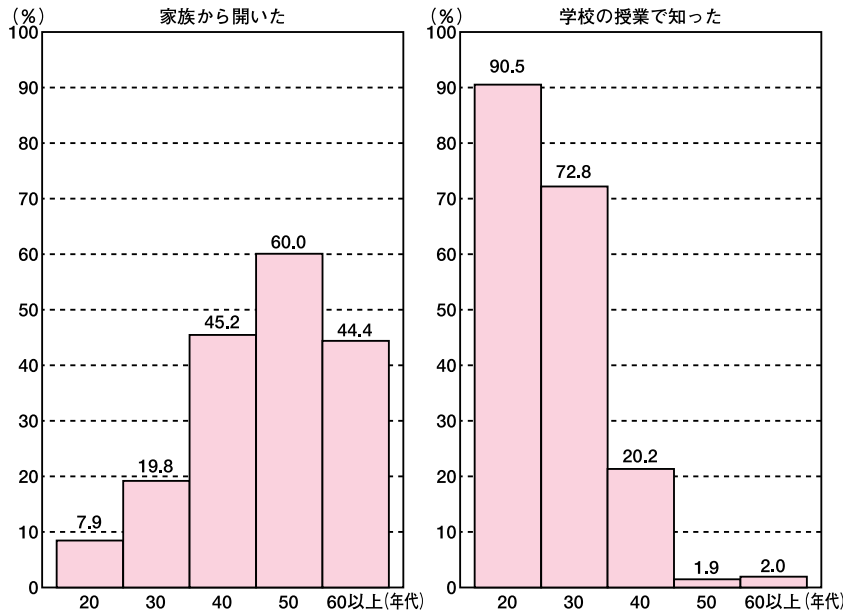
※重複・複数・無回答があるため、合計が100%にならない場合があります。

### 問4

あなたが同和問題について、はじめて知ったきっかけは何からですか。《いつ、だれから同和問題を知らされたのか》

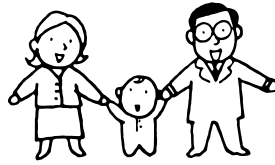
「家族から聞いた。」「学校の授業で習った。」が全体の70%を占めています。「家族から聞いた。」では、40歳代以上が高い割合を占めていますが、初めて聞いた時、正しく教わったかどうか気がかりです。いつでも正しく伝えられるように日ごろから学習をしっかりと行う必要があると思えます。

また、「学校の授業で習った。」では、20歳代が90.5%と高い割合を占めており、学校における同和教育の成果のあらわれといえます。



### 問6

あなたは、同和問題を、どのような場面で強く感じますか。《日常生活の中での差別認識》



	ある	ない	わからない
S60	45.0	20.6	34.4
H 3	39.0	25.0	36.0
H 8	32.1	31.3	35.0
H13	33.3	24.2	42.5



### 問5

あなたの地域に現在でも同和問題にかかわる差別があると思えますか。《同和問題の現実性》

「ある」と答えた人が徐々に減少していますが、まだ約3分の1の人が「ある」と答えています。具体的にどのような差別と出合ったり聞かされたりしたのか、また、そのときどのように対応したり考えたのかを把握する必要があります。また、「わからない」と答えた人が7.5ポイント増加しています。差別が見えにくくなったのか、本当になくなったととらえているのか、判断の難しいところですが、同和問題を自分のこととしてとらえ、人権感覚を常に磨いていく必要があると思えます。

「結婚のとき」と答えた人が54.1%で最も高いですが、前回の調査のときより、7.8ポイントも低くなっています。同和教育の成果のあらわれといえます。結婚以外の項目でも同和問題を意識している人が21.4%もあり、今後、あらゆる機会をとらえて啓発活動の続ける必要があると思えます。

